

平成27年度 タラ美容福祉専門学校 美容科 自己評価委員会報告書

1. 実施日時 平成28年5月30日（木）15時
2. 場 所 タラ美容福祉専門学校教室
3. 出席者

(自己評価委員)

赤塚隆平（委員長）、榎木千春、外園賢太郎、福永里奈

4. 評価結果

(1) 教育理念、目的

評価項目	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の教育理念や目的、育成する人材像が明確に表現されているか、また、これらが教職員・学生・保護者に浸透しているか</li> <li>・本校の職業教育の特色は何か</li> <li>・業界や社会のニーズに合わせ、本校の教育理念や目的、育成する人材像が定められているか</li> <li>・本校の教育理念や目的、育成する人材像を実現するための具体的な方法が事業計画に明記されているか</li> </ul>	<p>本校は、「美容業務に必要な知識・技能・態度を修得した美容師の養成」及び「美容業従事者としての専門職業人の養成」を目的としている（学則第1条）。</p> <p>本校の特色の一つである、美容師としての福祉社会への貢献を学習できる科目をとおして取得する「准美容福祉士」資格は、導入以来3年連続全員取得の実績となっている。</p> <p>より高度な専門職業人養成が求められていく中で、本校は事業計画に基づき、美容事業所との産学連携による教育活動の推進、改善を行っており、学校運営全体においても‘学生満足度の向上’を掲げ、改善に努めている。</p> <p>昨年度実施の自己評価において、これら学校の目的や指針について、学生や保護者への浸透が不十分であったとの反省があった。このため、本年度は行事等の都度、在校生へ講話や書面、校内放送によりメッセージを発信しているほか、7月には在校生保護者へ向け学校便りのページ数を増やして発行した。</p>

(2) 学校運営

<ul style="list-style-type: none"><li>・教育理念や目的、育成する人材像に沿った学校運営方針が事業計画に策定されているか</li><li>・学校運営に必要な学則、細則、内規等が整備され、機能しているか</li><li>・学校内の運営組織や職位ごとの意思決定機能は有効に作用しているか</li><li>・防災、防犯に対する安全対策が整備され、定期的な訓練や注意喚起が行われているか</li><li>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</li></ul>	<p>本校の目的を踏まえ、毎年の事業計画において学生募集、学生の育成、カリキュラム、内部規程等の整備といった分野ごとの具体的施策を策定し実行している。この中で学生の育成、カリキュラムについては特に重要であり、学生の基礎学力向上、丁寧な入学時オリエンテーションの実施、美容師国家試験全員合格のための対策、産学連携の推進、就職支援対策、休退学の防止、カリキュラム及び学習環境の整備等、計画に基づき取り組んでいる。</p> <p>事業計画の遂行にあたっては、月次に進捗管理を行いながら一つ一つの項目を確実に実行することを心懸けている。計画外事項や計画の修正等が発生した場合は、学校組織内で解決できる事項、学園本部と協議して解決していく事項に分類、判断して対処している。</p> <p>防災、防犯対策については、毎年4月の防災訓練や防犯警備システムの運用等、防災マニュアルに基づいて実施している。</p> <p>教育活動に関する情報公開については、学校教育活動の日々の様子、行事やイベントの告知など、ホームページに記事を投稿したり、学校便りを発行したりすることにより実行している。</p>
---	--

(3) 教育活動

<ul style="list-style-type: none"><li>・本校の教育理念や目的、育成する人材像を達成するためのカリキュラムが組み立てられているか</li><li>・業界のニーズに合わせて、定期的なカリキュラムの見直しが行われているか</li><li>・実践的な職業教育の視点にたったカリキュラムが組み立てられているか</li><li>・授業評価の実践・評価体制はあるか</li><li>・成績評価・単位認定は学則・細則・内規に準拠したものになっているか</li><li>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中で</li></ul>	<p>本学科開学以来、変化し続ける社会ニーズに対応して毎年カリキュラム内容の検討を行い、必要に応じて改編を行っている。これに伴い、平成15年の開学以来、本校カリキュラムの特徴は実践力の向上、福祉美容の導入、そして現在は産学連携へと変遷を辿ってきている。平成27年度は産学連携をさらに推進するため、既提携先の地元美容企業6社に加え、美容関係協会（日本ヘアカラー協会）とも産学連携に関する協定書を締結した。運用においては、企業と学校双方の委員で構成する教育課程編成委員会による協議結果を踏まえ、事業所における実習や現役美容師を本校へ講師派遣して行う授業など、実践的カリキュラムを共同で開発・改善を行った。</p> <p>学生の成績評価・単位認定に関する規程等については、従来から美容師養成施設指定規則に準拠して整備されているものに加え、産学連携による授業を外部企業講師が評価する評価表についても整備した。カリキュラム全般について、今後も社会ニーズ、業界ニーズに対応して毎年検討・改良を続けていく方針である。</p> <p>これからさらに高度な専門職業人の養成を担っていくためには、教員自身が最新の専門知識及び技術の習得や指導力等の向上をさらに図る必要がある。28年度計画では、新たに教員の資質向上を図る研修として、美容ディplラー主催の技術研修に教員が参加することとしている。</p>
---	--

<p>の体系的な位置づけはあるか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか</li> <li>・教員が関連分野における先端的な知識・技能等を修得するため、または指導能力を向上するための研修等が行われているか</li> </ul>	
--	--

(4) 学修成果

<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか</li> <li>・資格取得率の向上が図られているか</li> <li>・退学の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか</li> </ul>	<p>就職希望者については、例年100%の就職率を達成している。今後も学生一人ひとりのニーズにマッチした就職先を見定め、離職率の低減にもさらに取り組んでいく。</p> <p>美容師国家試験は27年度も全員合格を達成することが出来た。今後も全員が美容師国家資格を取得して卒業できるよう、美容専門学校としての本分を果たしていく。</p> <p>退学対策については、退学者防止委員会を設置し、早期に対策をとることにより、退学者数の低減が図られてきている。学生の小さな変化を見逃さないように教職員一丸となって、さらに退学者の低減に努めていく。</p> <p>卒業生の動向については、就職先訪問や担任の情報網などにより把握しに努めている。</p>
--	--

(5) 学生支援

<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか</li> <li>・学生相談に関する支援体制が整備され、機能しているか</li> <li>・学生への経済的側面を支援する体制が整備され、機能しているか</li> <li>・保護者との適切な連携を図る機会を設けてあるか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> </ul>	<p>就職に対する希望調査や面談、美容室オーナーや卒業生の講話などを入学時から計画的に実施しており、就職に対する動機付けやキャリア形成への理解にも力を入れている。</p> <p>学生への経済的支援については、前・後期学費の一括納入が困難な学生に対して、願い出により分納や延納を認めるなどして、負担の軽減を図っている。この他にも、交通費・賃貸住居費補助制度、美容事業所紹介による入学者への入学時納付金減免制度などの施策を講じている。</p> <p>保護者との連携は年々重要さを増しており、入学式や三者面談、日頃の電話連絡等によりコミュニケーションをとっている。また、学校便りの発行も保護者に対する情報発信の一翼を担っている。本年度は7月ヘアショーへの招待、8月に授業参観も予定している。</p> <p>卒業生への支援については、離職した卒業生等に対するキャリア相談や就職先の紹介等を実施しており、これを今後も積極的に継続し、学校と卒業生のパイプを太くしていく。</p>
--	---

(6) 教育環境

<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育上の必要性に十分対応できる教育施設、設備であるか</li> <li>・IT機器などの教育用設備が教育上の必要性に充分対応できるか</li> <li>・学外実習やインターンを</li> </ul>	<p>実習設備や教育機器などについては、教育現場や教育課程編成委員会等の意見や要望を聞きながら、各年度事業計画策定に合わせて導入の検討を行っている。本年度はエステベッド2台及びエステ機材の購入を計画している。また、社会人として職場環境を整える習慣を身に付けるため、TPOに応じた整理整頓やそうじの実施に、学生、教職員一同取り組んでいる。</p>
---	--

支援する体制が整っているか

(7) 学生の受入れ募集

・入学対象者への案内等、学生募集活動は適正に行われているか  
・就職率や資格取得率など、教育成果の情報提供が適切に行われているか  
・入学選考は学生募集要項に則り適正かつ、公平に行われているか  
・定員充足率は適正か

学生募集活動において、募集開始時期、就職率や合格率の表示など、特に協定等に違反した募集は行っていない。  
入学選考については、学生募集要項に則り適正に実施している。  
学生募集については、ホームページの運営、高等学校訪問、進学ガイダンスへの参加、オープンキャンパス等を実施している。定員充足を達成するために一層の取り組みを行っていく。

(8) 財務

・中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか  
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか  
・財務についての会計監査が適正に行われているか  
・収支情報は適正に公開されているか  
・学生納付金は妥当なものとなっているか

母体が学校教育法第1条校(幼稚園)を併設する学校法人であるため、学校運営及び会計処理など全般にわたり、公認会計士による法定監査及び定期監査を受けている。学校法人として社会的責任を果たすため、引き続き適正運営に努めるとともに、適正な情報公開にも取り組んでいく。  
予算計画は中期(3年)計画と単年度計画を詳細に策定している。単年度計画については毎月予算管理会議を開催して執行状況を逐一把握のうえ、4半期毎に理事会に報告し、計画にずれが生じないようにしている。

(9) 社会貢献、地域貢献

・学校の教育資源などを有効活用した社会貢献を行っているか  
・地域貢献や高校などを対象に公開授業や出張講座を行っているか  
・学生のボランティア活動を推奨、支援する体制が整っているか

福祉施設でのボランティア活動は、「福祉美容」を特徴の一つとする本校において学生も積極的に参加しており、訪問先の施設から好評を得ている。テレビや新聞等で報道されることにより学生の意欲も年々高まっている。また、高校での職業理解のための出張講座や、高校生や高校PTAの視察も積極的に受入れている。

(10) 法令等の遵守

・専修学校設置基準等関係法令の遵守と適正な運営がなされているか  
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

専修学校設置基準及び美容師養成施設指定規則に則して運営を行っている。各種の変更手続や届出など、県学事法制課への提出区分や時期などに留意し、今後も適正な運営を行っていきたい。

学校評価については、その意義を教職員がより理解して定着していくよう、改善を図りながら毎年実施していく。

<ul style="list-style-type: none"><li>・学校評価の実施と問題点の改善に努めているか</li><li>・学校評価の結果を公表しているか</li></ul>	
---	--

#### 5. 評価結果の活用について

平成27年度自己評価は、専修学校における学校評価ガイドラインに沿って10の大項目と46の小項目設定により実施しました。

本評価結果は、学校運営の改善に役立てられると共に、本校学校評価実施規程に則り、理事会に報告後、理事会の承認を受けてホームページ等で公開される予定です。また、学校関係者評価委員会において、学校関係者評価委員が評価を行う際の資料としても活用されます。